



火災とその予防

お宅では避難口がありますか？

生活の根拠である家、大切な家財、そして生命まで灰にしてしまう恐ろしい火事。世の中が進むにつれて火事もまたふえていることは大きな問題であります。

私たちは、この火事にうち勝つためにはどうしたらよいでしょうか、それは火事の実情、性質を知り、それに対処する方法をよく心得て実行することです。

<出火場所>

火事が起きた建物の種類をみると、一般住宅の火事が一番多く、約45%をしめております。そして出火場所をみると、一番多いのは居間で、つぎは台所ですが皆さんはこの台所よりも居間の方が出火率が高いのに不思議さを感じずるかもしれません。

これは、台所は割合に防火的に炊事用具が改善されているため、一応注意するのに、居間は燃えやすいものが多いうゑに油断しがちなことと、石油ストーブ等の暖房器具が多く使われるようになったためでもあります。

<原因>

出火原因をみると、タバコによるのが全般を通じて多いのです。これは、吸う機会が多いこと、また所かまわず吸われていること、なれ過ぎて不用意に取り扱われていることが原因になっていると思います。

それに、新しい傾向として、危険物による火事が非常に多くなっていることです。この危険物火災は急激に燃えるため一瞬のうちに火事が大きくなり死傷者も出るなど、大きな損害のもとになっています。

<時期>

火事の多い時期は、気温の低い冬の期間です。

これは、寒いので火を使う率が多いからです。また、気象的にみても空気の乾燥する11月から4月までが火災が起りやすくなるのです。

<予防>

火事是不注意、不始末によるものが多いので、冬期は特に次の事項に注意していただきたいと思います。

①外出および就寝時においては、火を使用している暖房器具などは完全に消火し、また、電気コタツは必ずコンセ

ントからはずして安全を確認すること
②寝タバコは火事のもと、焼死の危険度が非常に高いので、絶対にやめること。

③暖房器具は破損のまま使用しないこと、定期的に点検、掃除をしましょう
④プロパンの配管は常に点検し、ガスもれのないようにすること。また使用後は必ず元栓をしめること。

<避難>

①非常口は2カ所以上設け、寝室や居

間から容易に避難できる状態しておくこと。(避難口は老幼者であっても開閉できる構造が望ましい)

②避難経路には、障害となるような物はおかないようにし、また積雪の場合は除雪を行なうなどして、いつでも避難できるようにしておくこと。

<水利>

貯水そう、消火栓、その他消防水利附近には雪を捨てないようにし、消防活動に支障にならないよう、ご協力願います。

<火事が起きたら!!>

火事になったら、早く消防署

(電話119番一局番なし)

に電話するか、火災報知機でご連絡ください。

1人で消そうとしないで、すぐ連絡してください。早い通報が少ない損害で済むからです。

消防車を呼んでも罰金をとられることはありません。

119番を忘れずに……



(写真)

14年ぶりに再演されたハシゴの妙技
—出初式で—

本市の消防力

消防自動車	15台
手挽ポンプ	6台
可搬式ポンプ	69台
消防署数	1署
分団数	26分団
消防署員数	44名
団員数	654名